

やけど



1歳前後の子どもの身長は70-80cm程度ですが、これは一般的なダイニングテーブルやコンロのグリル窓と同じぐらいの高さです。テーブルの端においたものに手をのばしたり、テーブルクロスを引っ張ることで、テーブルの上のお茶・味噌汁・カップ麺などの熱い飲み物や汁物をあびてやけどをします。また、電気ケトルなどの電源コードを引っ張って倒したり、加湿器・炊飯器から出る蒸気に触れたり、調理中や調理後のグリル窓やコンロ上のフライパンなどの調理器具に直接触れたりしてやけどをすることがあります。

応急処置のポイント

20分



まず

やけどをしたら、**すぐに流水で冷やしましょう。**
20分間は冷やしてください。
氷水はおすすめしません。

服の上から 熱湯を浴びた

無理に脱がせようとせず**着衣のまま**冷やしましょう



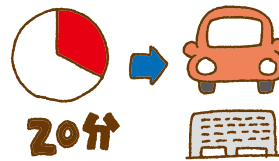
やけどの 範囲が広い

冷やしてる間に**体温が下がりすぎない**ように気をつけましょう



やけどの 面積が広い

20分間冷やした後すぐに**医療機関を受診**して下さい



顔や頭、指の関節 をやけどした

やけどの範囲が小さくても**医療機関を受診**して下さい



医療機関が遠い場合などは、**救急車の利用**を考えて下さい。

家庭での事故(傷害)予防のポイント

手の届く範囲を確認し、やけどの危険がある飲食物は子どもの手の届かない場所に置きましょう

また、テーブルクロスは使用しないようにしましょう



調理器具は、使用中と使用後温度が十分に下がるまで、近くに子どもを近づけないようにしましょう



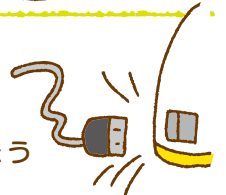
電気ケトルやポットは、倒れても中身がこぼれにくい製品を選びましょう



加湿器や炊飯器は、蒸気が出ない、もしくは高温の蒸気がでない製品を選びましょう



電源コードが磁石などで容易に着脱するタイプの製品を選ぶが、電源コードも含めて、子どもの手の届かない場所に設置しましょう



実際にあった事例

電気ケトルのお湯による熱傷 Injury Alert(傷害速報)No.28

11ヶ月の女の子。床に置いてあった電気ケトルを倒して熱湯の溜まりの中にいるところを発見され、体の表面積の25%のやけどを負っていた。

主治医からのひとこと